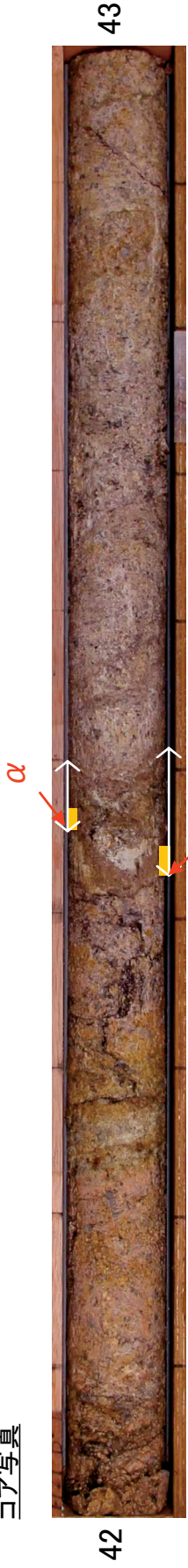


・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

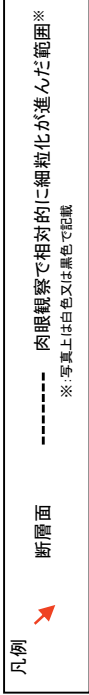
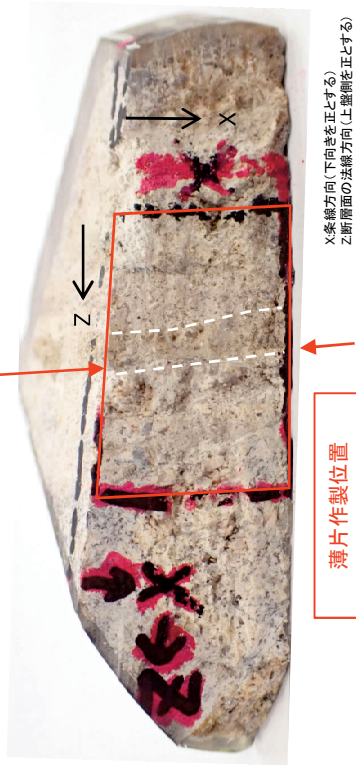
※断層面 α は最新活動面

コア写真



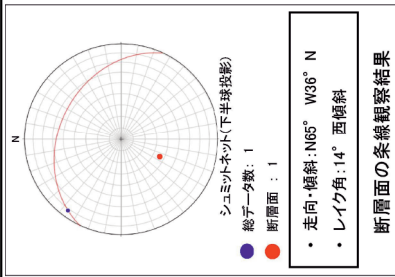
薄片作製位置写真

薄片全景写真(単ニコル)

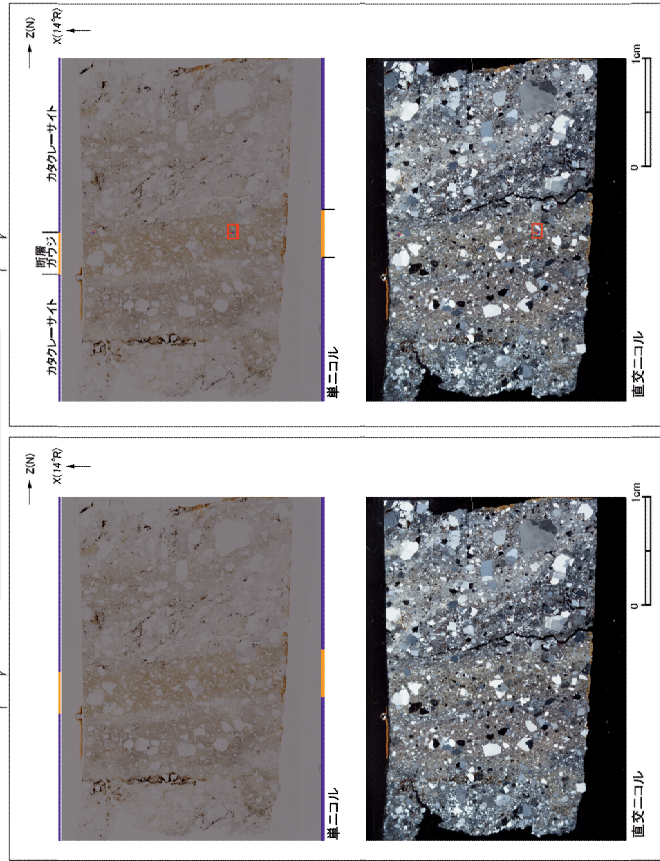


X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

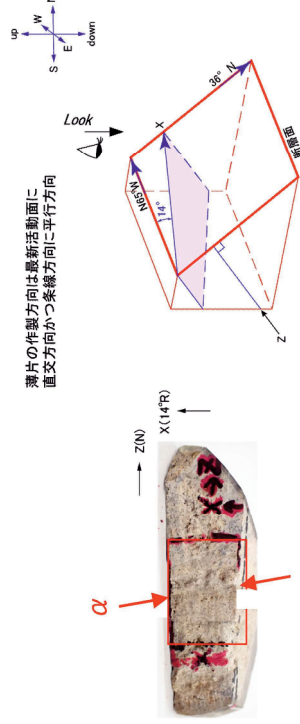
- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位セグメントは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



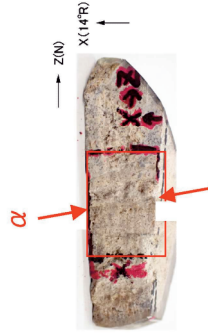
断層面の条線観察結果



※断層面αは最新活動面



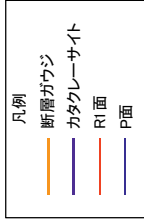
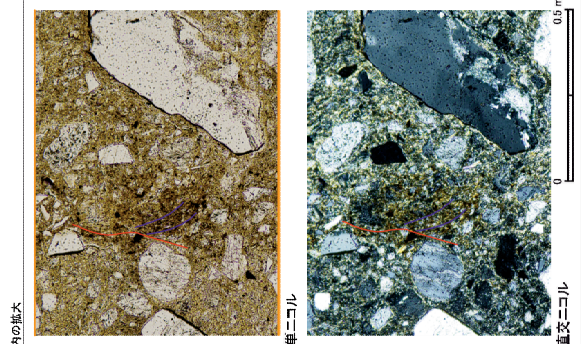
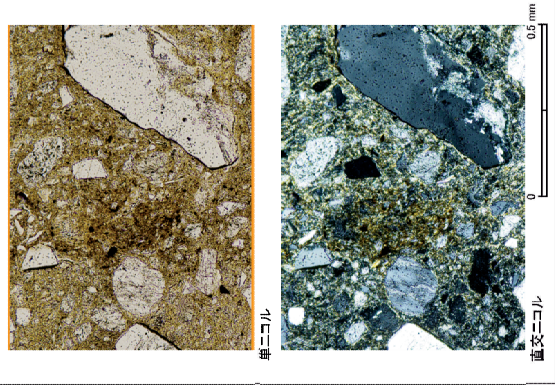
薄片の作製方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



5cm
プロックサンプル

走向・傾斜 N65°W 36° N
X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上向きを正とする)

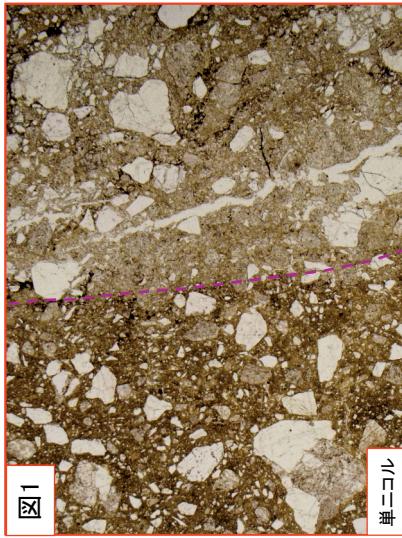
条線内の拡大



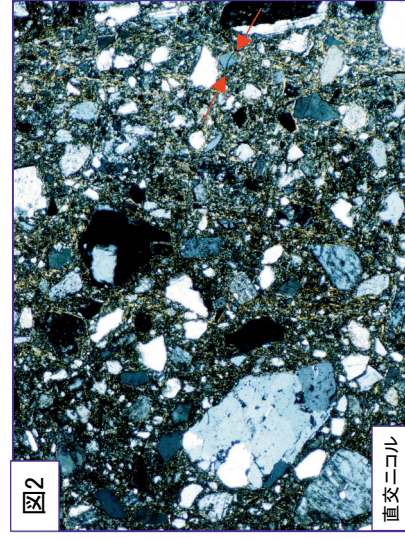
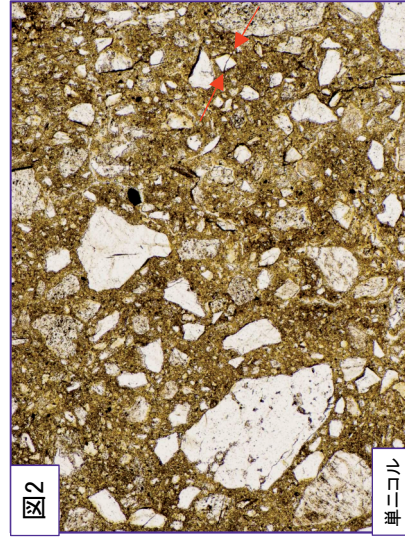
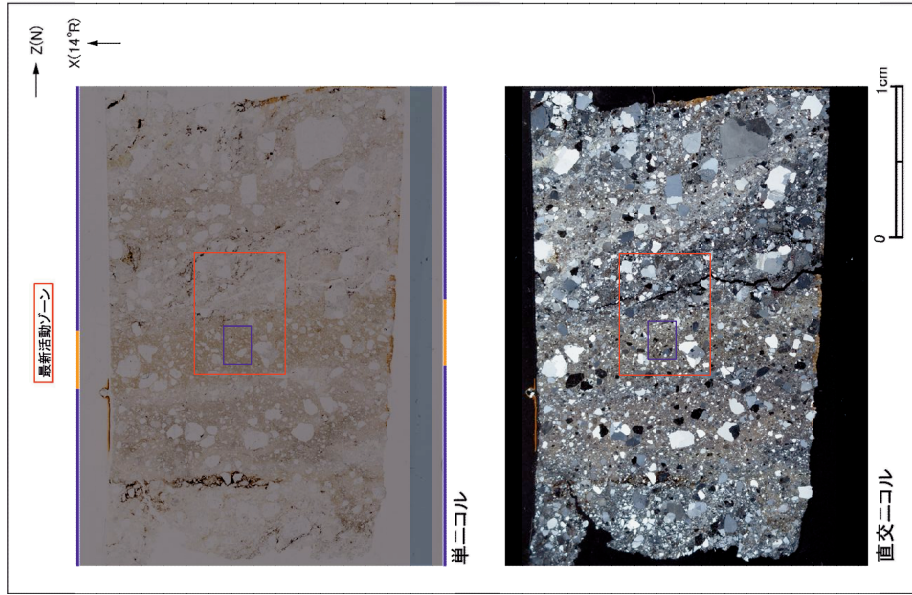
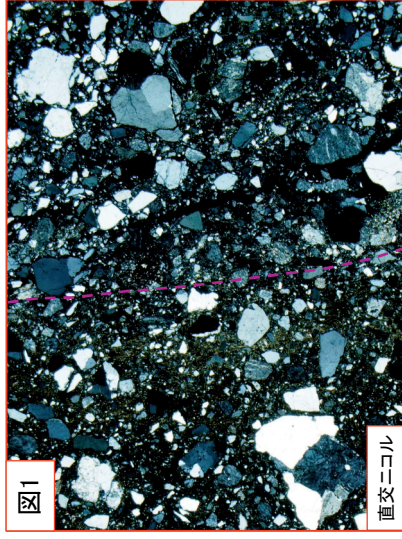
第7.4.4.262図 (3) 破碎部性状 H27-B-1 深度42.41~42.49m (変位セグメントによる断層岩区分(1/2))

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)



破線は帯状で直線的な範囲を示す



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す

第7.4.4.262図 (4)

破碎部性状 H27-B-1 深度42.41~42.49m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

(肉眼観察結果 深度42.41m)

- 肉眼観察では、礫混じり粘土状部は、軟質で、細粒部は一部波打っているが、全体的に連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。
 - 角ばった岩片が多い。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサーサイトの特徴は、カタクレーサーサイトに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された礫混じり粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの礫混り粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	1.5	無

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度44.24～44.31mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、やや硬質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化された岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

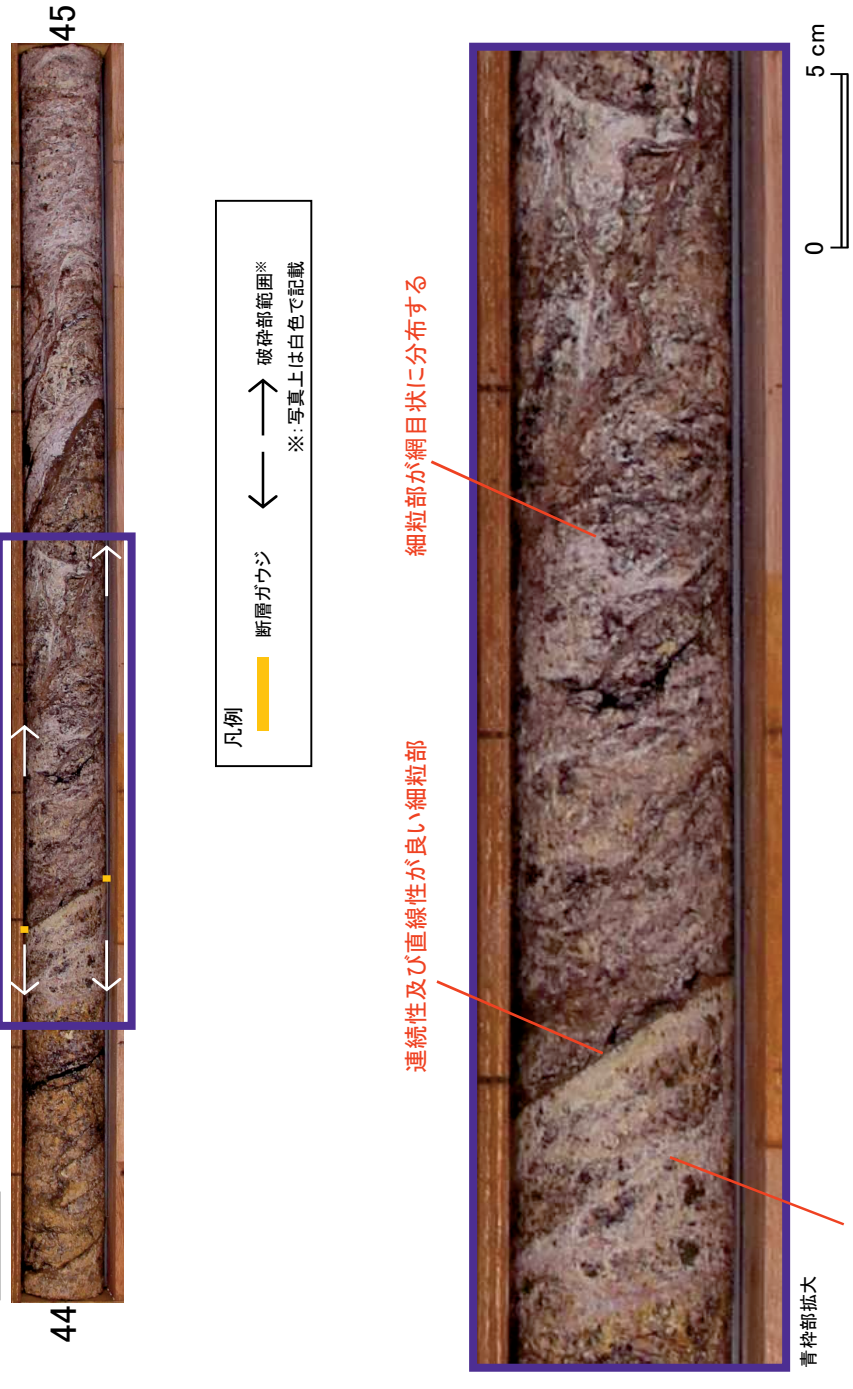
・深度44.31mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度44.31～44.53mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

- 44.24～44.53m：破砕部
- 44.24～44.31m：粘土質礫状部 (Hb)
 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5～13
 。で湾曲して、下端35°で直線的に
 連続。やや硬質で、径2～3mm石英粒、
 径5～10mm(最大25mm)花崗斑岩岩片を
 30%程度含む。灰黄色を呈する。幅45
 ～65mm。
- 44.31m：粘土状部 (Hc-1)
 上下端とも35°で直線的に連続。軟
 質で、径1mmの石英粒をごくわずか
 (5%以下)含む。灰黄褐色を呈する。
 幅1～2mm。
- 44.31～44.53m：粘土混じり岩片状部
 (Hj)
 上端35°で直線的に、下端70°で波
 打って連続。径5mm前後の粘土化した
 花崗斑岩岩片と岩片間は白色軟質の
 脈状～網状粘土脈からなる。灰褐色
 ～淡黄色を呈する。幅140～200mm。

コア写真

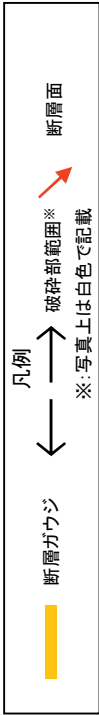


第7.4.4.263図 (1) 破砕部性状 H27-B-1 深度44.24～44.53m (肉眼観察による断層岩区分)

・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

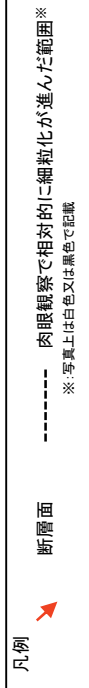
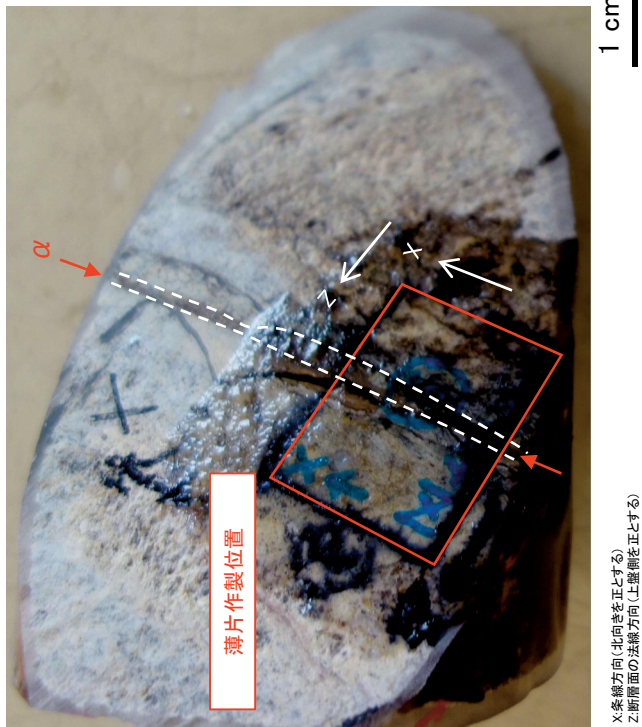
※断層面 α は最新活動面



薄片全景写真(単ニコル)

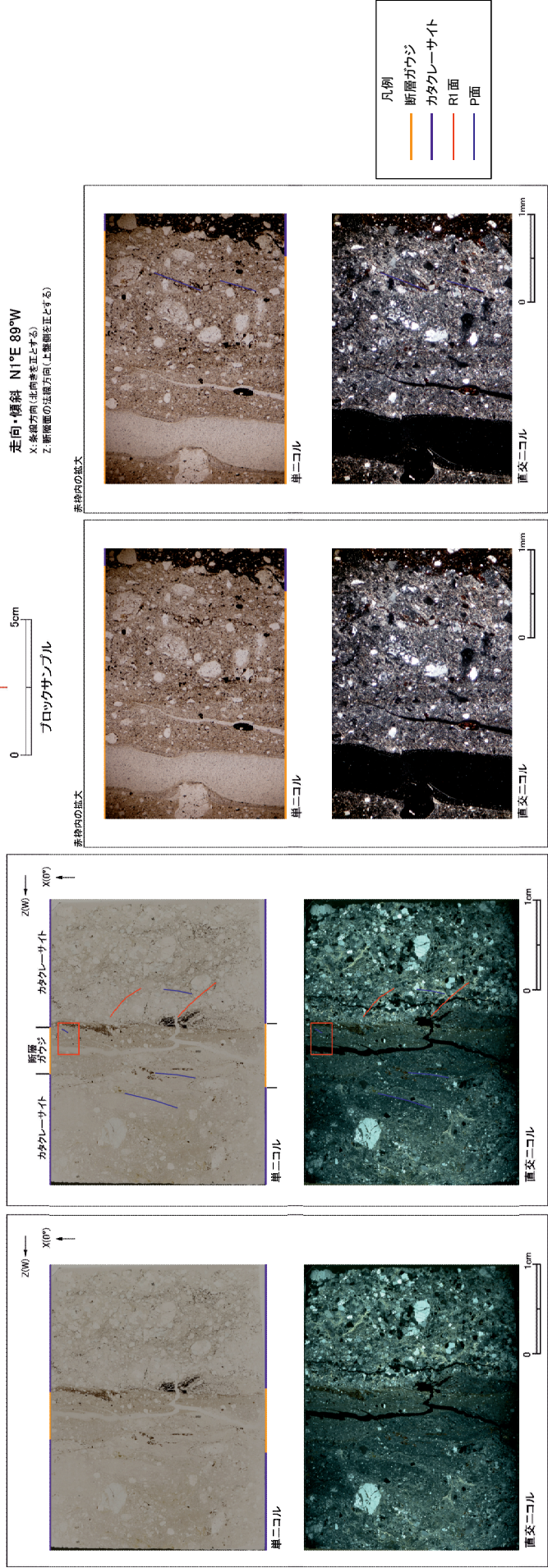
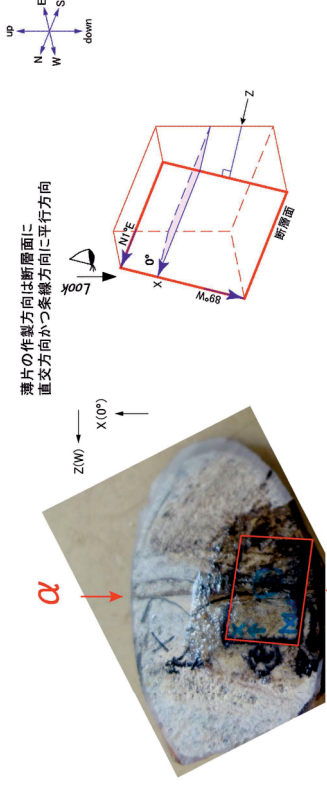
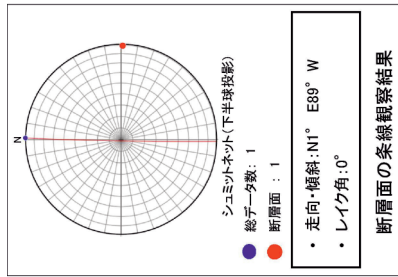


薄片作製位置写真



- ・H27-B-1のボーリングゾーンから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
 - 岩片は少ない。

※断層面 α は最新活動面



第7.4.4.263図 (3) 破碎部性状 H27-B-1 深度44.24~44.53m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))